

自治体	名称	策定年	計画期間	理念（基本理念、戦略）	将来像	目標	基本方針（基本方向、指針）	行動計画（施策実施方針、取組の方向）
北海道	北海道生物多様性保全計画	H22.3	10年間			1 地域の特性に応じた多様な生態系や動植物の保全	①地域の特性を認識するため、生態系やそれを構成する生物などの現状把握を図る	(1)高山 ①原生状態の厳格な保護 ②レクリエーション活動との調和
							②絶滅のおそれのある動植物や重要な生態系の保全を図る ・絶滅原因の減少と遺伝的多様性の確保 ・希少種の個体数の回復 ・必要に応じた外来種の防除	(2)森林 ①原生的な天然林、自然性の高い天然林の保護 ②生物多様性の保全に配慮した森林施業 ③森林の復元 (3)湿原 ①人手の加わっていない湿原の保全 ②湿原に及ぼす負荷の軽減とワイズユース ③湿原の再生・復元
						2 地域の特性に応じた生態系構成要素の持続可能な利用	③安定的な生態系やそれを形成する動植物の維持を図る	(4)河川・湖沼 ①取り巻く環境に応じた河川の保全 ②河川・湖沼環境の再生、復元
							①生物多様性に及ぼす影響を少なくする生態系構成要素の持続的な利用を図る ・生態系や種の保全を考慮した動植物の利用 ・環境負荷を抑え、循環利用に配慮した大気や水の利用	(5)海岸 ①自然海岸の保全 ②生物多様性に配慮した国土保全と海岸の再生 (6)浅海域 ①浅海域の保全と水産業との調和 ②浅海域の再生・復元
栃木県	生物多様性とちぎ戦略 ～つなごういのちの共生をいま「とちぎ」から～	H22.3	10年間	豊かな生物多様性を守り育て、その恵みを次の世代に引き継ぐ「人と自然が共生するとちぎ」の実現		(1)多様な生物とそれらのつながりを育む社会 (2)将来にわたって生物多様性からの恵みを分かち合う社会 (3)多様な主体の協働により自然との共生を守り育てる社会		(7)農村 ①環境に配慮した農村空間の構築 ②自然と共生する農耕地の整備 (8)都市 ①都市化に伴う影響の軽減 ②都市における水と緑の連続性の確保
								1-1 地域の生態系の保全 1-2 絶滅のおそれのある種の保全 2 里地里山の活用と保全 3 野生鳥獣の保護管理 4 外来種の防除 5 地球温暖化への対応 6 生物多様性を支える人づくりの推進
流山市	生物多様性がれやま戦略	H22.3	50年間	オオタカがすむ森のまちを子どもたちの未来へ		多くの生きものが生息・生育する多様な環境 ～水と緑の回廊と地域の生態系ネットワークの構築～	生物多様性の保全と回復 生物多様性の価値の持続可能な利用 環境教育・環境学習機会の創出 基盤情報の整備・充実	・生態系ネットワークの構築 ・人の関わりによる谷津・湧水などの保全と再生 ・野生動植物の保護と管理 ・地球温暖化・ヒートアイランド現象による影響の調査 ・地域の持続可能な発展における生物多様性への配慮 ・緑の多面的機能の活用 ・意識の醸成 ・参加・協働の充実 ・調査研究の整備と充実
名古屋市	生物多様性2050なごや戦略	H22.3	40年間	1 自然に支えられた健康なまちの創造			1.生きもののできる場所を拡大していきます ～土・水・緑をまもり、ふやす～	(1)樹林・農地など、まとまりのある生息・生育地を保全していきます (2)生息・生育地を、身近な場所に広げます (3)新しいまちづくりで、生息・生育地のまとまりを拡大します
							2.自然の質を向上します ～風土にあった植生・生物相～	(1)正確な自然環境の情報を収集・蓄積・共有します (2)風土にあった動植物相を回復します
							3.土・水・緑のネットワークづくりを進めます ～緑と緑、緑と水辺をつなぎ、まとめる～	(1)名古屋をつらぬく土・水・緑の回廊をつくります (2)地域ごとに「生きもの散歩道」を確保します (3)周辺地域とつながるネットワークを再生します
							1.自然を活かした快適な省エネライフを実現します ～生物多様性配慮と気候変動対策の統合～ 2.新たなビジネスモデルを創造します ～生物多様性への貢献と活用～ 3.賢い商品選択と流域圏の連携を強めます ～持続可能な農林漁業を支える流通・消費～	(1)自然を活かして、暮らしのエネルギー消費を削減します (1)新しい産業を創出します (2)企業の社会的責任として生物多様性保全を促進します (1)商品の生物多様性への配慮を見える化します (2)生物多様性に配慮した商品の利用を広げます (3)伊勢湾流域圏の連携を促進します
				2 環境負荷の少ない暮らし・ビジネスの創造			1.短期目線から長期目線へ転換します ～「自然の助けを借りる暮らし」への発想転換～ 2.新しい担い手づくりをすすめます ～自然とつきあう知恵の共有～ 3.地域の自然を活かしたコミュニティづくりを進めます ～共汗・共感による地域づくり～	(1)次世代に残すなごやを考えます (1)子ども大人も学べる場をつくります (2)伝統の知恵を現代に活かします (1)地域の自然を地域の自慢にします
							1.生物多様性を活かす社会システムづくりを進めます 2.自然共生まちづくりの拠点となる「情報交流ネットワーク」づくりを進めます	(1)行政施策を統合的に推進します (2)生態系サービス(自然の恵み)を見える化します (3)生態系サービスの価値を社会に反映するしくみをつくります (1)情報拠点の役割を果たします (2)交流拠点の役割を果たします (3)多様な主体の連携で拠点を支えます
高山市	生物多様性ひだたかやま戦略	H22.3	100年間	生物多様性を保全し、そのめぐみを将来にわたって享受することができる、自然と共生するまち「ひだたかやま」 共生：人をふくめたすべてのいのちの共生 循環：多様なめぐみをもたらすいのちの循環 参加：いのちを育み尊重するまちづくりへの参加		①ふるさとの生物多様性を保全しているまち ②自然のめぐみを持続的に利用しているまち ③自然のめぐみの大切さ市民が尊重しているまち	1.土地本来の生物多様性を保全・再生する 2.生物多様性の持続可能な利用を発展・伝承させる 3.生物多様性とともにある地域社会を築く	1.生態系の保全・再生 2.野生生物の保護・管理 3.生物多様性のめぐみの利用・伝承 4.生物多様性のめぐみの新たな利用 5.生物多様性の普及啓発 6.生物多様性の教育の推進

自治体	名称	策定年	計画期間	理念（基本理念、戦略）	将来像	目標	基本方針（基本方向、指針）	行動計画（施策実施方針、取組の方向）	
北九州市	北九州市生物多様性戦略（北九州市自然環境保全基本計画改訂版）	H22.10 パブコメ案	5年間	都市と自然との共生～都市のなかの自然・自然のなかの都市～		1.多様な自然環境の保全	地域固有の健全な生態系の保全	曾根干潟の保全と利用 平尾台の保全と利用	
							希少種の保全と環境教育	希少動植物の保護・保全対策の検討 特定種に対する保護・保全対策	
							里地里山の保全と持続的な利用	里山の新しいあり方の検討 自然環境学習の場としての活用	
							生態系ネットワークの形成	森林の保全 農地の保全 河川環境の保全 自然海岸等の保全 水産環境の保全（新規） モニタリングサイト1000の設置と保全	
							市民・NPOによる自然環境の保全	美化活動の一環としての河川、海辺、里山の保全	
							外来生物の対策と適正な管理	生態系攪乱状況の把握 法に基づく対策の実施	
							2.市民が育む自然	自然環境に精通した人材の育成	自然環境サポーター育成事業 ほたるのふるさとづくり 紫川水先案内人育成事業
								環境教育・学習の促進、普及啓発	環境教育事業の推進 学校教育における野外環境に視点を当てた教育の推進 少年自然の家等における自然教育の推進 農業体験を通じた食農教育・環境教育の推進
							3.身近に自然を感じる都市づくり	響灘・鳥がさえずる緑の回廊による響灘埋立地の緑の創成 環境首都100万本植樹プロジェクト	
								洞海湾を市民の手に	洞海湾の環境創造の推進 市民参加による環境修復社会実験の実施
								事業の実施に伴う環境配慮	環境影響評価制度に基づく環境配慮 北九州市環境配慮指針の活用推進 自然環境アドバイザー制度による支援 自然公園の適正利用 採石場、土取場跡地の緑化・修景
								自然と調和した都市基盤整備の促進	地域の自然環境等に配慮した道路事業の推進 水循環再生の推進 都市緑化の推進
								自然と調和し自然を維持する農林水産業の促進	清流の復活と豊かな水辺環境の創造 周辺の自然環境に配慮した北九州空港移転跡地の 農業・農村の活性化と食の安全性の確保
							4.市民と自然とのふれあいの推進	里地里山の持続的な利用	森林・林業の活性化 市民生活の健康を支え、市民とふれあう、 活き生き水産業の振興
								市民と自然とのふれあいの場の整備	「海辺のスタープラン2010」に基づく水際線の整備 貯水池における水辺とのふれあいの増進 人と野鳥が共存する環境づくり ビオトープなどの自然共生型地域づくり
								農林水産業とのふれあいの促進	農とのふれあいの場づくり 森林レクリエーションの場の整備 市民と交流する魅力ある水産業の創造
								自然環境に関する市民啓発	水環境館を活用した市民啓発 夏のスターウォッチング エコツアー（自然観察講座） その他の市民啓発事業
								エコツーリズム、グリーンツーリズムの促進 エコビクターズインダストリーの推進	
							5.自然・生物に関する情報の整備	自然環境調査の実施とデータベースの構築	実態把握の推進 GISを用いた自然情報データベースの充実と維持管理 自然環境調査結果のデータベースへの集約
								市民参加による自然環境情報の収集	市民参加による自然環境調査 特異な地形・地質、水環境の実態調査 調査を通じた専門家の育成
三重県	(仮称)みえ生物多様性地域戦略（行動計画編）	H22.11 パブコメ素案	4年間	私たちの「いのち」と「暮らし」は、生物多様性を基礎として成り立っており、生物多様性が保全されなければ、持続可能な社会を築くことは不可能です。豊かな生物多様性を保全するためには、県民・NPO等民間活動団体・事業者・研究者・行政（県・市・町）が互いに協働し、自主的かつ積極的な取組の輪が広がることが重要です。人も生態系の一員であることを理解し、みんなで生物多様性の保全が進められている地域社会を目指します。		みんなで生物多様性の保全が進められている地域社会	1 個体数や生息生育地の維持・回復	ア 野生動植物保全活動の推進 イ 水質汚濁の防止 ウ 生活排水対策の推進 エ 水資源の適正利用 オ 環境に配慮した農業の推進 カ 公益的機能をもつ多様な森林づくり（環境林整備）の推進 キ 漁場の整備・漁場の保全 ク 水産業の多面的機能の発揮 ケ 環境保全に向けた技術開発 コ 天然記念物の指定と保護	
							2 里地里山・里海・人工林等の継続的な管理や保全活動の促進・活性化	ア 里地里山保全活動の推進 イ 森林整備の推進 ウ 多様な主体による森林づくり エ 増えすぎた野生動植物調査 オ 農業・農村の多面的機能の発揮	
							3 外来種等による生態系の攪乱の防止	ア 外来種による生態系の攪乱の防止	
							4 生物多様性に関する理解の促進	ア 生物多様性の認知度の向上活動 イ 自然とのふれあいの確保 ウ 三重県立博物館におけるフィールドワーク等の実施と新県立博物館の整備 エ 環境教育の推進 カ 熊野古道 キ 自然環境保全の研究の推進	
							※地球温暖化による生物多様性への影響の低減	ア 温室効果ガス排出削減対策の推進 イ エネルギーの適正利用の推進 ウ 新エネルギーの導入促進	

自治体	名称	理念	目標（将来像）	地域別将来像	基本方針（基本方向）	行動計画	
明石市	(仮称)生物多様性あかし戦略	H22.2 パブコメ骨子案	50年間	自然と人が共生するまち“あかし”を未来の子どもたち	まち(市街地) 住宅地、道路、公園、学校、事業用地など様々な場所で緑が増え、日々の生活空間が緑に包まれ、生きもの住みかが広がり、水と緑のネットワークが形成されています。 また、自然の恵みを活かした交流や行事が行われており、人と自然が共生する癒しのあるまちとなっています。	○まちの身近な場所に生きものの生息・生育地を広げていきます	●水と緑のネットワークづくり ●指針づくり(ガイドライン) ●生物多様性の浸透
					田畑(水田・耕作地) 環境保全に配慮した農業による地産地消が推進され、農業が活性化し多くの生きものが暮らしています。 また、農業体験などの自然体験学習や市民農園など、様々な形で農地が利用され、そこに地域の人との交流が生まれています。	○まとまりのある生きものの生息・生育地を保全していきます	●水辺環境の改善 ●モニタリング調査の実施 ●外来種対策
					樹林(里山林) 利用形態により、人の力、自然の力で適正な維持管理が行われた、多様な生きものを育む豊かな生態系を形成しています。 また、樹林は暮らしとも結びつく緑となり、間伐により生まれた木材は、シイタケ栽培などのホダ木に利用するなど、人の生活と結びついた樹林になっています。	○生物多様性から受ける恵みを持続可能なものにしていきます	●希少な野生生物の保護・保全 ●保全活動への理解と協力
					ため池 適正な水管理が行われ、水と緑のネットワークを形成する核となっています。 多様な水生植物、水生昆虫、魚類、水鳥などの安住の地となり、緑豊かな水辺の親水空間となっています。		●循環型社会の形成 ●意識改革の推進 ●農地の利活用 ●環境保全型農業の推進 ●地産地消の推進
					河川 清らかでうおいのある水が流れる、山やため池と海をつなぐ水循環の中心的役割を担い、多くの生きものが暮らす環境が整い、その水辺である河川敷や側道は緑化親水空間となっています。	○学び・守り・育てる仕組みづくりをしていきます	●自然との触れ合いづくり ●生物多様性への関心
海岸 海岸では多くの海浜植物が育ち、緑が増え、海はため池、河川から水循環による恵みを受け、水産資源豊かな漁場となり、明石に暮らす人たちに、自然の恵みと安らぎある水辺空間を提供しています。	●担い手づくり						

自治体	名称	理念	将来像	基本方針（基本方向）	目標	行動計画	
神戸市	(仮称)生物多様性神戸戦略(仮称)	H22.10 パブコメ骨子案	10年間	【山】 六甲山、丹生・帝釈山などのまとまった森林が、多くの生きものを育み、水源保全、緑の聖域などとして保全されている。 災害防止、水源涵養、大気浄化、気候緩和などの森林機能を発揮し市民に大切にされている。 【川・海】 山と海をつなぐ水と緑のネットワークとして、生物生息空間が確保された親水河川が整備されている。 海では水産資源の保護・育成のための藻場等が保全・再生され、市民の生活を支える豊かな海と、市民に親しまれる海岸がある。 【田園】 農産物の地産地消が推進され、農業が活性化し、神戸市民の豊かな食卓を支えている。 農地が生きものにあふれ、環境学習の場として活用されるなど、田園地域全体が人と生きもので活性化している。 【街】 公園、街路、工場、住宅など街中のいたるところで生物多様性に配慮した緑が行われている。 公園、学校ビオトープ、せせらぎ、街路樹などが水と緑のネットワークを形成し、多くの生きものが集まり、子どもたちや市民の憩いの場所となっている。	1 生物多様性に配慮したまちづくりを進めます。	①六甲山などの森をまもり育て、健全な森の力で災害を防ぎます。 ②清らかで潤いのある水環境をまもり、育てるとともに、森・里・川・海の水循環を保全・再生します。 ③人と共に歩んできた多様ないのちを育む田園環境をまもり、未来へつなげていきます。 ④水と緑のネットワークが形成され、街のいたるところで生きものがみられます。	<ul style="list-style-type: none"> ・六甲山における市民・事業者等と協働した森林管理の推進 ・生物多様性保全対策指針の策定・運用 ・環境影響評価の運用・拡充 ・みどりの聖域づくり ・六甲山系グリーンベルト整備事業 ・水質安全用地の取得 ・森林整備計画の作成・見直し ・植林、里山整備に対する補助 ・森林法に基づく林地開発規制 ・六甲山・摩耶山エコツーリズム ・エコツーリズムの教育旅行誘致・滞在型観光振興、民間参画・プログラム充実 ・健全な水環境の確保に関する施策の推進 ・「多自然川づくり」の推進 ・水産資源保護・育成等のための藻場・干潟等の保全支援の実施 ・臨海部の親水性の向上と生物生息空間の整備 ・須磨・舞子海岸及び海岸林(松林)の保全 ・環境創造型護岸による生物生息空間の創造 ・つくり・育てる漁業の推進 ・冬期湛水水田による生物多様性の向上 ・不耕作地の湿地環境としての利用 ・環境保全型農業と地産地消の推進 ・人と自然との共生ゾーンの推進 ・集落周辺の自然緑地の保全・活用 ・地球温暖化対策と生物多様性保全に貢献する屋上・壁面緑化 ・生物多様性に配慮した緑化の推進 ・市街地の民有緑地の保全・育成、空閑地の飾花・緑化、山麓部での空き地の活用など緑地の創出 ・街のシンボルとなる街路樹の育成 ・市街地に生きものを呼び込む水と緑のネットワークの形成 ・生物生息生育空間としての都市公園の整備 ・学校ビオトープ活用推進事業 ・小学校での環境体験事業の継続実施 ・しあわせの村(シルバーカレッジ)を活用した生物多様性に関する人材育成 ・ウミガメエコツーリズム ・市民参加の森づくり(こうべ森の学校、摩耶の森クラブ) ・市民・事業者の行動指針の作成・普及 ・下水処理水を利用した親水空間での観察会等の実施 ・動物園・水族園・植物園等での生物多様性に関する教育・啓発事業の展開 ・生物多様性保全シンボル拠点の整備 ・市民団体等と企業、行政をつなぐ生物多様性プラトホームの構築 ・パートナーシップ活動助成 ・各区の地域提案型活動助成 ・都市公園における自然維持保全活動 ・里山保全活動、河川愛護活動、市民の水辺事業の支援 ・市民団体等との協働による生物多様性保全推進モデル事業の実施 ・市民参加型生きものモニタリングプロジェクト ・神戸版レッドデータの定期的更新 ・外来生物リスト・対策マニュアルなどによる情報提供 ・市民団体等との協働による生物多様性保全推進モデル事業の実施
					2 市民・事業者・行政などすべての主体がその行動を生物多様性の視点で見直し未来に引き継ぎます。	⑤すべての市民や子どもたちが神戸の自然や地球の生きものとのつながりを学び、行動し、自然を育む知恵と恵みへの感謝の心を未来に引き継ぎます。	
					3 地域の生物多様性を支えあえる仕組みをつくります。	⑥震災復興と共に立ち上がった市民の環を拡げ、市民・企業・市民団体・行政など、すべての主体がパートナーとして手を取り合い、未来を考えて行動します。	
					⑦神戸の生物多様性に関する情報を、市民の共有財産として収集・蓄積し、保全に活かします。		